

## 日本英語教育史学会 会報

270

2015 年 8 月 30 日

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番

東京電機大学工学部英語系列 河村和也研究室

tel: 03-5284-5641 fax: 03-5284-5699

e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店【普通】0997182

**HiSELT** Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

学会公式ウェブサイト: [www.hiset.jp](http://www.hiset.jp)

## 第253回研究例会報告

2015 (平成27) 年7月19日 (日), 東京電機大学 (東京都足立区) において第253回研究例会が開催されました (参加者14名)。

はじめに第2回英語教育史入門セミナーが行われ, 河村和也氏 (東京電機大学) が「学校史研究・人物史研究のおもしろさ」というテーマでお話しされました。研究発表は, 馬本勉氏 (県立広島大学), 小篠敏明氏 (福山平成大学), 河村和也氏 (東京電機大学) による「明治期～現代の代表的英語教科書9種のリーダビリティ分析: Ozasa-Fukui Year Level, Ver. 3.4.2nhnc1-5による分析」でした。司会は江利川春雄氏 (和歌山大学) でした。

以下に出席者の感想を掲載します。ご参照ください。感想のうち特に番号の付されたものは, ①は河村氏によるセミナー, ②は馬本・小篠・河村氏の発表に対するものです。

◇ ◇ ◇

◆①人は自分に関係があることに強い興味を持ちます。河村先生の自校史研究は, ご自分が勤務されてきたいくつかの学校の英語教育史的特徴を明らかにされ, 探求のワクワク感を聴衆が共有できる楽しい入門講座でした。語り口も絶妙でした。論文にできる水準かと思いますが, 会報にエッセイ風の連載をいただいても味読できるのではないかと思います。(みかん舟)

◆①ペンマンシップや文字改革運動の歴史的事実がもっと明らかになっていくと, 今後の日本における文字指導にもいかせる知見となるのではないかと思います。河村先生の語り口が心地良かったです。ありがとうございました。(片山大地)

◆①学校とそこに関わった人々を調べていくと, 実に様々な連鎖が明らかになることを, とても楽しく聞かせていただきました。会員各自によるゆかりの学校史 (とかかわる人物史) の研究を蓄積すれば, 日本英語教育史の実相がより網羅的に描き出せるのでは, という夢の膨らむセミナーでした。ありがとうございました。(Horse)

◆①学校史に関する研究の面白さ, また人物に焦点をあてた視点から調査研究をされた内容に加え, 先生の語り口から学校史の面白さを再確認する良い機会を与えられた思いでした。先生の益々のご研究に期待しております。有難うございました。(huiyi, s)

◆①大変楽しく拝聴しました。特に日英言語文化学会でお世話になった浅野先生が土屋先生と東京電大にお勤めであったことは今回初めて知りました。(拝田清)

◆②自らの研究を自ら乗り越えていくという小篠先生チームの旺盛な研究意欲に、まず敬意を表したいと思います。示された英語教育史的な知見の素晴らしさはもとよりですが、数学・統計学などの異分野の研究者とコラボし、後身会員を育てて行かれる小篠先生の研究姿勢から大いに学びました。なお、語彙や英語の水準を比較する場合、エリート教育だった戦前と、国民教育となった戦後とでは学習者層に質的变化が起こっていることに注意喚起する必要があると思いました。

蛇足ですが、今回の例会は、すばらしい内容の発表であったにもかかわらず、参加者が少なかった点が惜しまれます。期末テスト期間を避けるなど、日程調整が必要かと思いました。(みかん舟)

◆②教科書の分析ツールについてかなり素晴らしいものと思いました。これからの学校教育で多いに利用できるものと思います。更に改良されて日本の英語教育がより充実したものにできればと思います。お2人の先生方に、また小篠先生に感謝申し上げます。

(huiyi, s)

◆②統計については全く素人なのですが、それでも教科書の量的分析・研究の面白さや可能性がよく分かりました。今後の教科書開発に、入試問題の作成に具体的にどう資するのか、さらなる進展がとても楽しみです。ありがとうございました。(片山大地)

◆②現行教科書の質的分析(主に題材)は何度か行ったこともあります。量的分析に関しては今回はじめて見ました。非常に興味深く、自分も「R分析ツール」を使って何か分析してみたいと思いました。このソフトをフリーソフトとして公開予定ということで感動しました!!(拝田清)

## 英語教育史入門セミナーを終えて：学校史研究・人物史研究のおもしろさ

河村 和也 (東京電機大学)

自分の勤めている学校のことをおやりなさい—英語教育史に興味を持ち始めた頃、この会の先達からいただいたことばです。私は、中学校・高等学校の専任教員として5校を転々としたあと大学の教員となりましたが、常にそのことばを胸に調査・研究を続けてきました。5月の全国大会での発表もその一つと位置付けられるものです。

今回は英語教育史入門セミナーの第2回として、現在の勤務校について少し触れたあと、縁をいただいた5つの学校(高輪中学校・高等学校、筑波大学附属高等学校、富士見中学校・高等学校、東京大学教育学部附属中学校・高等学校、東京女学館中学校・高等学校)を調べる中から得たさまざまなエピソードをご紹介します。雑駁な話に終始したかと危惧していましたが、幸い好評をいただいたようで、どうにか役員としての責めを果たせたかと安堵しているところです。

学校史の森を散策することはあまりに楽しく、時に深いところに入り込んで帰ってくるのができなくなるのですが、必ず「英語教育史」の領域に戻り、研究としての高まりを期したいと考えています。今後、学校史を軸に英語教育史の研究を進めたいとお考えのみなさんと手を携えて歩むことができたらと願っています。



\* 当日の発表資料(スライド)をご希望の方は、河村個人宛のメールまたは郵便でご連絡ください。

## <研究発表を終えて>

河村和也 (東京電機大学), 馬本 勉 (県立広島大学), 小篠敏明 (福山平成大学)

平成 12~16 年度に科学研究費補助金によって実施した共同研究「明治・大正・昭和初期の英語教科書の計量的分析」(代表者・小篠敏明), およびその成果の一部をまとめた小篠敏明・江利川春雄(編著)『英語教科書の歴史的研究』(辞游社, 2004



年)において, 明治期から現代にいたる英語教科書 9 種のリーダビリティを検討しました。本発表では, それ以降改良を続けてきたリータビリティの新指標を用いたデータを算出するとともに, 先行研究で用いた Flesch-Kincaid Grade Level の指標によるデータとの比較を行いました。

まず馬本から, 9 種の英語教科書の概観, および小篠・江利川(2004)の成果と課題を述べ, 続いて小篠から新指標による分析ツールを紹介し, 最後に河村より, 得られたデータの紹介と考察を行いました。フロアから頂戴した質問・コメントに感謝いたします。今後, 新指標についてさらに細かく検討していきたいと思ひます。

### ソフト, 無料でお送りします

小篠敏明

発表では, リーダビリティの分析ツールについて説明させていただきました。Ozasa-Fukui Year Level, Ver. 3.4.2nhnc1-5 と呼ぶこのソフトは, 今年の 2 月に出来たばかりで, 現在試行中のバージョンです。発表のメイン・テーマが 9 種類の歴史教科書のリーダビリティ値比較でしたので, 残念ながらこのツールそのものの説明には十分な時間を割くことができませんでした。しかし, 質疑がツールに関するものが中心だったことを思えば, もう少し丁寧に説明すべきだったと反省しています。

ツールの説明で私が特に強調させていただいたことは, これが 2012 年 (中学校), 2013 年 (高校) の改訂新学習指導要領と教科書に準拠した測定指標であるという点でした。今回の改訂では, それぞれの教科書の特徴をとらえるのがこれまでよりむずかしく, 相応の説明率 ( $r^2$ ) を得るには 2 回の試行が必要でした。結局, 教科書の選択, 規準文の作成に改善を加えて, 説明率 0.8802 に辿りつくことができたいきさつを説明させていただきました。

質疑の時間ではソフトに関して少なからずご質問をいただき, うれしい限りです。特に, ソフトの中身に関してポイントを突いたご質問は今後の改善の参考になるように感じました。やはり多くの専門家の知恵を拝借するのが一番の改善法だと感じた次第です。皆様のご質疑に感謝いたします。

コンピュータ・ソフトは皆様に使っていただいて「なんぼ」のものです。無料ソフトですので, ご必要な方は是非ご連絡ください。無料にてお送りいたします。

## 『日本英語教育史研究』第 31 号投稿論文の募集

研究紀要『日本英語教育史研究』第 31 号への投稿論文を募集します。奮ってご投稿ください。投稿締切は 10 月 31 日 (土) (必着) です。送付要領は次の通りです。

- ①送付先：〒331-0825 埼玉県さいたま市北区榎引町 2-176-4 佐藤 恵一
  - ②提出方法：原稿は、執筆者名を明記したもの 1 部と執筆者名をふせたもの 2 部を上記送付先に郵送してください。また、受領連絡用に宛て先を明記した葉書を 1 枚同封して下さい。
- ・刊行は来年 5 月の予定です。紀要 30 号に掲載の投稿規程および標準書式 (学会ウェブサイトからも閲覧可) をご参照ください。

## 『日本英語教育史研究』投稿規程

1. 投稿資格は、入会后 1 年を経過した会員とする。ただし、編集委員会の依頼による特別寄稿についてはこの限りではない。
2. 投稿論文は日本英語教育史の研究に資する内容のもので、未発表の論文であることが求められる。ただし、すでに口頭で発表し、その旨を明記している場合は、他誌等に投稿中でないことを条件に、審査の対象となる。
3. 各号に投稿できるのは、共著の場合を含め、ひとり 2 本までとする。ただし、そのうち第一著者となれるのは 1 本に限られる。
4. 投稿論文の分量は、キーワード、英文アブストラクト、図表等を含めて『日本英語教育史研究』の完成ページ (38 字×28 行) で 20 ページ以内とする。これを超過することが認められることもあるが、その場合も 30 ページを超えることはできない。また、20 ページを超える場合には、分量に応じて別途、印刷経費を自己負担するものとする。
5. 投稿論文の提出は、原則として、ワープロ、パソコンによる打ち出し原稿を正副 3 部提出するものとし、正本 1 部には著者名を明記し、副本 2 部には著者名を伏せるものとする。  
提出は郵送もしくは託送によるものとし、原稿とあわせ、受領確認用の宛て先明記の葉書を 1 枚同封したうえ、締切り日までに必着することが求められる。
6. 投稿締切りは、毎年 10 月 31 日とし、この日が日曜日の場合は、翌 11 月 1 日とする。これに遅れた場合には、受理が拒否される。
7. 投稿論文は、論文審査委員会の審査を経て、掲載の可否、および、論文、研究ノート、調査報告、その他との種別が決定され、著者に通知される。
8. 掲載が認められた場合には、審査委員会による指摘等を踏まえて完成原稿を作成し、指定の期限内に再提出するものとする。その際に、プリントアウト原稿ならびに電子媒体によるファイルを提出する。
9. 著者による校正は 2 回とし、変更は字句の修正のみとする。内容を改めた場合には別論文とみなされ、掲載が拒否される。
10. 抜刷りは 30 部を学会経費によって作成し、著者 (共著の場合は第一著者) に対して無償で提供される。これを超過して抜刷りを希望する場合には実費負担とする。

11. 掲載された論文等の著作権は著者に帰属するが、著作権のうち複製権および公衆送信権の行使については日本英語教育史学会に委託される。
12. 『日本英語教育史研究』に掲載された論文等を他書・他誌に転載する場合には、転載先書名(予定可)・誌名、発行者等の情報を添え、表題を改める場合にはその旨を明らかにして、書面による転載許可願(書式任意)を編集委員会宛てに提出し、その許可を得るものとする。また、転載にあたっては、初出が『日本英語教育史研究』であることを明記し、号数、発行年を記すこととする。
13. 『日本英語教育史研究』に掲載された論文等を機関リポジトリを通じて公開する場合には、書面によって編集委員会に通知するものとする。

## 『日本英語教育史研究』投稿論文標準書式

投稿論文はワープロソフトを用いて、次の書式によって作成し、提出するものとする。

1. 用紙はA4判を用いる。余白は上下左右とも30ミリとする。
2. 本文の文字のサイズは12ポイントとし、1行あたり、和文の場合は38文字、英文の場合は76文字、いずれも1ページ28行とする。(注)参考文献の文字サイズは、10.5ポイントとする。なお、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. フォントは、和文は明朝体、英文はCenturyを用いる。
4. 和文のタイトルに副題を付す場合は、主題の後に全角コロンを付ける。
5. 和文の場合、句点は「。」(マル)、読点は「,」(コンマ)を用い、句読点やカッコは全角文字とする。
6. 見出しは、和文・英文ともゴシック体を用い、その前後に1行の空白を設ける。
7. 第1ページは以下の順とする。①論文題目、②論文題目の英訳または和訳、③執筆者名とそのローマ字表記(例 ERIKAWA, Haruo)、④日本語または英語のキーワード3語、⑤100~150語の英文アブストラクト、⑥本文  
なお、正本1部にのみ、冒頭8行の範囲に著者名を記すこととする。
8. 提出原稿にはページを付すこと。
9. 引用方法、注、および参考文献の記載は、次の例を参考にすること。(以下略)  
(詳細は『日本英語教育史研究』29号をご参照ください。)

※投稿論文に関する問い合わせ先：日本英語教育史学会紀要編集委員会

e-mail: [kiyo@hiset.jp](mailto:kiyo@hiset.jp)

---

### >> 事務局より

#### 》会費納入について

会員のみならずには会費の早期納入にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

8月末の段階で未納の方には、9月初旬をめどに郵便または電子メールでご連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願い申し上げます。

会 費 一般：5,000 円 / 学生：3,000 円  
 送 金 先 ゆうちょ銀行：(振替口座) 00150-3-132873  
 三菱東京 UFJ 銀行千住中央支店：(普通口座) 0997182  
 \*口座名義はいずれも「日本英語教育史学会」です。

## >> 新入会員 (敬称略)

- ◆ 惟任 泰裕 (これとう やすひろ) 兵庫県 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 (名簿担当)

## >> 英語教育史フォルダー

- ◆ 川嶋正士『「5 文型」論考—Parallel Grammar Series, Part 2 の検証』朝日出版社, 3024 円
- ◆ 江利川春雄『英語教科書は<戦争>をどう教えてきたか』研究社, 2376 円
- ◆ 8 月 12 日、フジテレビ系列「あしたのニュース」がシリーズ企画「みんなで考えるニッポンはなぜ戦争をしたのか」で「戦後 70 年 英語教育の歴史から、「戦争」に迫りました」を放送しました。この番組には本学会員の江利川春雄、高林茂、元会員の祐本寿男の各氏が登場し、様々な資料を交え、各時代の実態を語っています。以下のサイトから視聴できます。

<http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00300021.html>

## >> 会員新著

- ◆ 田邊祐司『一步先の英文ライティング』研究社, 1512 円

## >> 2015 年度 研究例会の予定

研究例会は 5 月を除く奇数月の「第 3 日曜日」に開催します。ただし、今年度 9 月については秋の大型連休と重なり交通手段や宿泊施設の確保が困難と思われるので「第 4 日曜日」である 27 日に移動します。なお、1 月・3 月も連休に当たりますので、遠方よりお越しの方は交通・宿泊に充分ご注意ください。

- ◆ 第 254 回研究例会 2015 年 9 月 27 日 (日) 広島市で開催予定 (pp.10-12 に詳報)
- ◆ 第 255 回研究例会 2015 年 11 月 15 日 (日) 東京都で開催予定
- ◆ 第 256 回研究例会 2016 年 1 月 10 日 (日) 東京都で開催予定
- ◆ 第 257 回研究例会 2016 年 3 月 20 日 (日) 大阪市で開催予定

研究例会での発表を希望する会員は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要(100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、以上 4 点を明記の上、発表希望月の前々月 10 日 (11 月発表希望であれば 9 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp  
 TEL&FAX 073-457-7433

## ＜第 254 回研究例会の発表概要＞

第 3 回英語教育史入門セミナー

### 「明治時代の教科書ガイド：独案内研究の面白さ」

馬本 勉 (県立広島大学)

明治期に「独案内」と呼ばれる独習書が多数出版されました。発音、語彙、文法、和訳など、学習者が必要とする情報満載の、いわば「教科書ガイド」。当時の英語学習法を知る手がかりとして集め始めた「独案内」の数々を紹介し、その魅力と謎に迫りたいと思います。

資料紹介

### 「広島高等師範学校教授・杉森此馬のイギリス留学：明治 37 年の日記から」

安部規子 (久留米工業高等専門学校)

杉森此馬は、広島高師初代英語教授として日本の英語教育に大きな貢献をした人物であり、中でもその音声学の知識はオックスフォード大学で Henry Sweet の講義を受けたことで深められたとされています。本年 3 月に杉森此馬の遺品が故郷である福岡県柳川市の柳川古文書館に寄贈されました。今回の「資料紹介」では、遺品の中のイギリス留学中の日記から、特にオックスフォード滞在中の日々を中心にご紹介します。

自著を語る

### 「英語教育と戦争教材： 江利川春雄著『英語教科書は＜戦争＞をどう教えてきたか』を素材に」

提案者：江利川春雄 (和歌山大学)

指定討論者：藤本文昭 (横浜翠陵中学・高等学校)

敗戦 70 年の節目の年に、広義の＜戦争＞と英語教育との関係を考えたい。約 30 年をかけて集めた供給本などの検定・国定教科書を主な素材に、西洋列強との関係を踏まえつつ、日清・日露戦争、植民地領有、第一次大戦、アジア・太平洋戦争などがどう描かれたかを通史的に考察する。本文を読み解きながら、込められた教育目的と時代相を批判的に検討し、「墨ぬり」による戦後処理の問題点や今日的な教訓も議論したい。(江利川)

指定討論者からは、戦後の英語教育でのリーダー(読本)の戦争・平和教材を研究してきた立場から、それらの比較などを通じた疑問や論点を提示し、議論を深めていきたい。(藤本)

**EDITOR'S BOX** 今夏は戦後 70 年の節目を迎えましたが、集団的自衛権の行使容認を柱とする安全保障関連 11 法案の衆院通過や原発の再稼働、首相談話など、今後の日本を左右する大きな動きが続いた印象があります。このような時こそ歴史から学ぶ姿勢を大切にしなければならないと思うのですが…。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 [geppo@hiset.jp](mailto:geppo@hiset.jp))

## 第 254 回 研究例会のご案内

日 時： 2015 年 9 月 27 日 (日) 13:00~17:00

会 場： サテライトキャンパスひろしま (広島県民文化センター) 5 階 504 中講義室  
広島市中区大手町 1-5-3 TEL: 082-251-3131

※研究例会に先立ち、13:00 より英語教育史入門セミナーを開催します。

13:10-13:50 第 3 回英語教育史入門セミナー

「明治時代の教科書ガイド：独案内研究の面白さ」

馬本 勉 (県立広島大学)

14:00-15:00 資料紹介

「広島高等師範学校教授・杉森此馬のイギリス留学：明治 37 年の日記から」

安部規子 (久留米工業高等専門学校)

15:15-16:45 自著を語る

「英語教育と戦争教材：

江利川春雄著『英語教科書は<戦争>をどう教えてきたか』を素材に」

提案者：江利川春雄 (和歌山大学)

指定討論者：藤本文昭 (横浜翠陵中学・高等学校)

参加費： 無料

問 合 先： 県立広島大学 馬本 勉 (umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)

★会員外の方の研究例会へのご参加を大いに歓迎いたします。

【会場案内】(県立広島大学のウェブサイトより)

- ・広島駅から電車で約 10 分  
(広電「紙屋町西」より徒歩 2 分)
- ・広島バスセンターから徒歩約 3 分
- ・広島空港からバスで約 60 分  
(エアポートリムジンバス)

